

より深く法学部を知るために

学生の声

さまざまなフィールドで活躍している法学部の学生を紹介しています。司法試験・公務員試験勉強・留学・ボランティア活動などに取り組む学生の声をぜひご覧ください。



中央大学 学生の声

さまざまなフィールドで活躍している法学部の学生を紹介しています。司法試験・公務員試験勉強・留学・ボランティア活動などに取り組む学生の声をぜひご覧ください。

学生の声

さまざまなフィールドで活躍している法学部の学生を紹介しています。司法試験・公務員試験勉強・留学・ボランティア活動などに取り組む学生の声をぜひご覧ください。

各学生プロフィールには、学年・専攻・就職実績・就職活動実績・ボランティア活動等の情報が記載されています。

各学生プロフィールには、学年・専攻・就職実績・就職活動実績・ボランティア活動等の情報が記載されています。

各学生プロフィールには、学年・専攻・就職実績・就職活動実績・ボランティア活動等の情報が記載されています。

各学生プロフィールには、学年・専攻・就職実績・就職活動実績・ボランティア活動等の情報が記載されています。

各学生プロフィールには、学年・専攻・就職実績・就職活動実績・ボランティア活動等の情報が記載されています。

『高校生からの法学入門』
(中央大学法学部編、中央大学出版部)

本学法学部より、『高校生からの法学入門』(中央大学法学部編、中央大学出版部)を出版しました。1人でも多くの10代の若者に、法を身近に感じ法学という学問に興味をもってもらいたい、そんな願いのこもった一冊です。SNS、18歳選挙権、ブラックバイトなど、高校生でも身近に感じられる話題から、法学部で実際に教鞭をとる教授陣が読者の皆さんを法学の世界へ誘います。



法学部 Web サイト

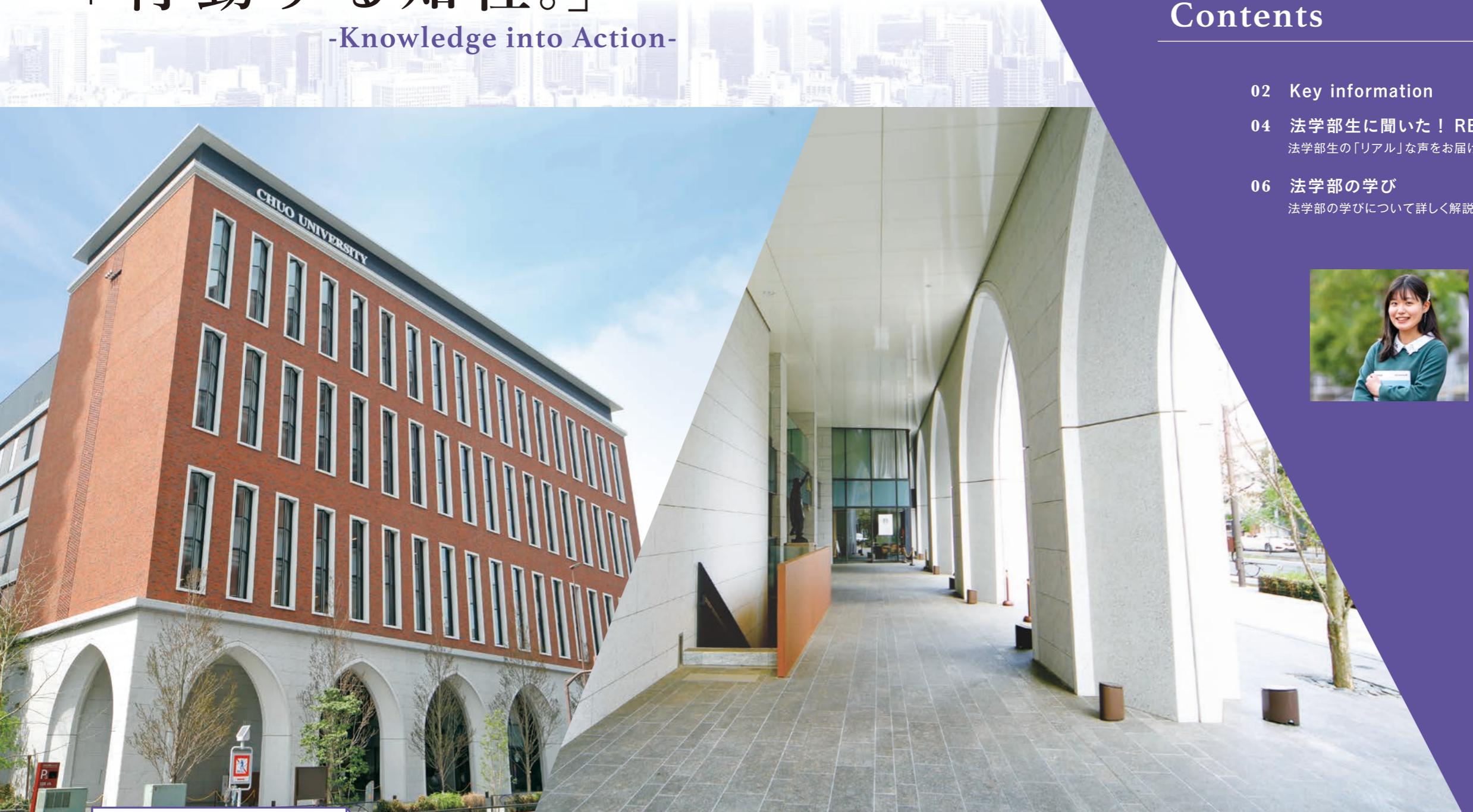


中央大学受験生ナビ Connect Web



「行動する知性。」

-Knowledge into Action-



Key information

2023年、東京都文京区に生まれた、中央大学法学部の新キャンパス。

「社会のあるところに、法あり」といわれるよう、私たちはさまざまな法的規制のもとで生活しています。複雑化する現代社会が抱える諸問題の解決のためには、法的な知識と思考のスキル、リーガルマインドに基づく問題解決能力こそ、世界を歩み、明日をつなぐ若者に欠かせない知性です。こうした時代背景のもとで、地球的な視野に立った法的問題意識と法的問題解決能力を備えた人材を育成し実績をもって学びを深める環境を築くべく、2023年に「茗荷谷キャンパス」を開校しました。

[詳しくはP.30をご覧ください](#)

Contents

02 Key information

04 法学部生に聞いた！REAL VOICE
法学部生の「リアル」な声をお届け。

06 法学部の学び

法学部の学びについて詳しく解説。



08 法律学科

12 国際企業関係法学科

16 政治学科

20 教員紹介

学生と教員の距離が近いのも法学部の特徴です。

22 法学部のグローバル教育

世界で活躍する力をサポート。

24 法学部独自の全額給付型奨学金

26 キャリアサポートと将来の進路

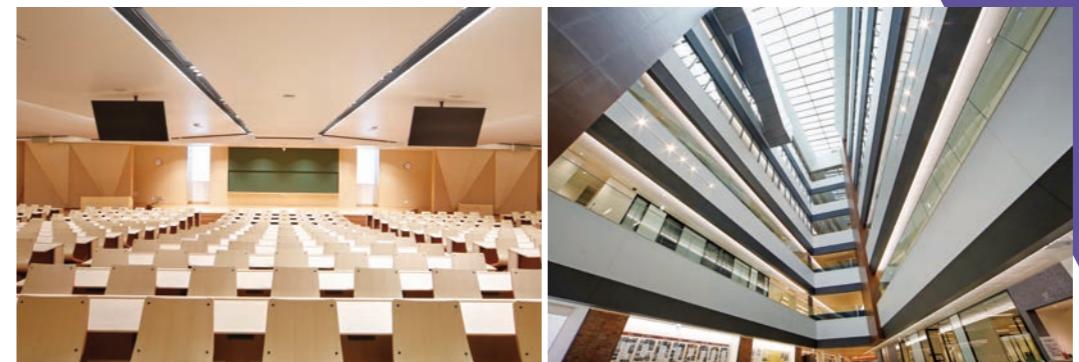
進路の不安や悩みも、細やかな指導で支えます。

28 諸分野で活躍する卒業生

30 茅荷谷キャンパスを徹底解剖

新キャンパスの魅力をご紹介します。

34 法学部長メッセージ



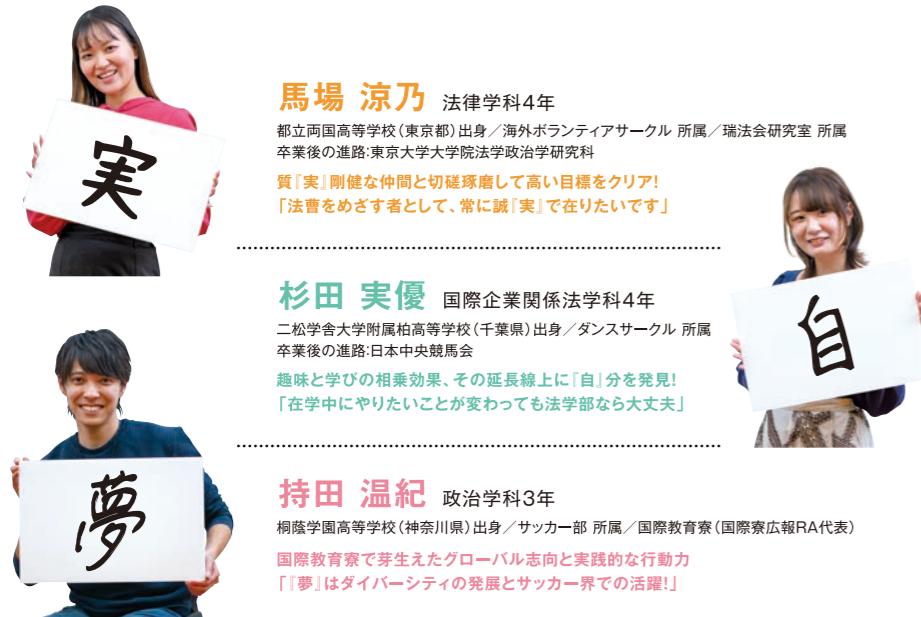
法学部生に聞いた!

REAL VOICE

法学部の学生は十人十色。

多様性に富んだ学生に対し、法学部ではそれぞれのやる気を後押しするサポートを行っています。

学部ならではの奨学金制度や多彩なプログラムを活用して「行動する知性。」を育む、3学科の学生に話を聞きました。



中央大学法学部へ進学した理由を お聞かせください

馬場 高校生の時から法曹志望で、法律学を勉強するなら中央大学法学部法律学科が最適であると考えたからです。炎の塔の研究室で志と同じくする仲間と学べることも、本学ならではの利点であると感じています。

杉田 私は将来なりたいものがたくさんあり、大学時代に決めようと考えていました。何をするにせよ法律は実社会で役立ちます。歴史ある中央大学法学部のハイレベルな環境で法律を学びたいと思いました。

持田 受験勉強に励んでいた頃、現役の中大法学部生から勉強を教わったからです。その時充実した学生生活を過ごす先輩の姿と人柄に憧れました。その後『高校生からの法学入門』で法律の楽しさと奥深さを知り、将来はダイバーシティなまちづくりに関わっていきたいと考えるようになりました。

皆さんが学んでいることについて お聞かせください

馬場 主に基本7法(民法、憲法、刑法、民訴、刑訴、

会社、行政)です。専門演習では、検察側と弁護側に分かれるディベートを通じて、刑法の学修を深めました。私は検察官志望ですが、刑法はほかの科目に比べて学説対立が激しく、そこに興味を惹かれました。

杉田 2年次のゼミでは東日本大震災の復興について学びました。現地の方から実際にお話を聞き、防災を備えたまちづくりへ向け、法律や公共政策など多方面からアプローチを試みました。3年次には公共政策・公共経営の専門演習に所属し、静岡県掛川市のフィールドワークに参加、2年次の学びを活かし、南海トラフ大地震への対策を考察しました。

持田 ゼミ活動を通してパリアフリーや地域振興について、制度や政策の面から研究しています。法学部では各学年で多くのゼミが設けられており、広告やメディア、スポーツ法など分野が豊富な点も魅力です。

私は公共経営、国際関係、福祉政治と毎年異なる分野のゼミに所属したこと、関心や知識が多く岐にわたって深まりました。

海外体験や奨学金の活用法について お聞かせください

馬場 海外体験の1つである法学部独自のグローバル・プログラム専門総合講座「カンボジア法整備

支援と社会開発援助」を履修しました。コロナ禍で現地を訪ることはできませんでしたが、途上国の法整備支援に関心があったので大変有意義でした。「やる気応援奨学金」は、法科大学院受験に必要な書籍の購入や模試費用に充てさせていただきました。受験料を含めると相当なお金がかかるので、法曹を志す学生にとってはとてもありがたい奨学金です。

杉田 FLP履修生を対象としたイタリアでの「アグリツーリズモ・ワークショップ」に参加する予定です。ここではイタリアの農業、食、文化、観光を学ぶほか、農場見学や乗馬体験などユニークなプログラムが組まれています。私の内定先である日本中央競馬会は農林水産省下に置かれる特殊法人で、卒業論文でもイタリアの競馬に触れているので強いつながりを感じています。

持田 国際寮での生活は視野を大きく広げてくれました。100人超の留学生と一緒に過ごす時間は物語のように面白く、入学以前は希薄だったグローバル志向が開花しました。後のサッカー部での東南アジア研修やカタール一人旅へつながったと思います。来年は「やる気応援奨学金」を活用して新たなチャレンジを考えています。

法学部生になっての 成長や変化について教えてください

馬場 入学当初は「犯罪者=悪」と思っていました。しかし、犯罪者の多くはその人間に犯罪者としての素質があるわけではなく、社会や環境が影響していること、そして根本的な解決へ向けては釈放後の適切な措置が必要であり、検察官の役割も大きいことを認識しました。この考え方の変化は、私にとって最も大きな成長といえます。

杉田 入学以前は完璧主義な性格で何事も一人で背負い込むような人間でしたが、大学では出会いに恵まれ、素直に人に頼ることができるようになりました。就職活動中の迷いを、ゼミの教員やOB・OGの方々に相談できたことも大変心強かったです。

持田 「アクションを起こし、乗り越えていく力」です。多くの方に支えられ、車椅子でもサッカー部で活動できていること、留学生を交えてバラスポーツのイベントを開いたことなど、以前の自分には想像できなかつたことです。2022年はW杯観戦のため単身でカタールへ渡りました※。ユニバーシティメッセージである「行動する知性。」に倣い、Beyond Bordersともいえる果敢な生き方を、あらゆる場面で実現していくと考えています。

中央大学法学部を 漢字一文字で表すなら何でしょう?

馬場 「実」です。法学部には本学の校風である「質実剛健」の言葉通り、気取らず真面目で、心身ともに強い人が多い印象です。また私自身、演習や法律科目の履修を通して、法律の勉強は堅苦しい暗記ではなく、「事実」を自分なりに評価して「真実」を導き出すことであると実感し、面白さを感じることができます。中央大学法学部で学んだ日々を忘れず、法曹をめざす者として、常に誠実で在りたいです。

杉田 「自」です。法学部の3学科には高い垣根はなく、学びたいことを学びたい時に学べる「自由な」環境があります。私自身がそうだったように、「やりたいことが変わっても、中大でなら学べる」、そして「自ら」進んで行動すれば大きなチャンスを手に入れることができます。それを一番伝えたいです。

持田 「夢」です。中央大学法学部は第一線で輝く先輩方の活躍が示す通り、充実した毎日から思うように夢を見つける場、夢をめざせる場であると感じます。多摩から茗荷谷へ、「夢が育まれる舞台」が新たに整い、そこで学生同士が高め合えることを嬉しく思います。

卒業後の進路や将来の夢について お聞かせください

馬場 東京大学大学院法学政治学研究科に進学予定です。検察官として社会正義の実現に努め、そこから得た見知りや経験を活かして、将来は国際的な司法支援に携わっていきたいです。

杉田 卒業後はJRAごと日本中央競馬会に入会します。自分が好きなことを仕事にして、競馬の公益性をより多くの人に伝えたいと考えています。

持田 大学での学びを活かしてダイバーシティの発展に寄与していきたいです。そしてサッカーの世界で活躍することが大きな夢です。世界のどこかでサッカーチームを創りたいです。馬場さん、杉田さんのお話を聞いていて、自分が高校生なら中央大学法学部に進学したい、何かやれそうな気がする、とあらためて感じました。



多様なニーズに応える3つの学科とコース制度



法律学科

- 法曹コース
- 公共法務コース
- 企業コース

定員882名

詳細はP.08へ

法律家は人権感覚や国際的素養を基礎に、社会問題を「自分の頭で」考えられなければなりません。そのため、法律科目だけでなく歴史・哲学などの幅広い教養やコミュニケーション能力、語学なども修得します。通常の講義に加え、1年次からはじまる少人数のゼミ、実務法曹による講義、インターンシップ、課外の法職講座・公認会計士講座など、多様な授業を用意しています。



国際企業関係 法学科

定員168名

詳細はP.12へ

少人数教育に徹した環境のなかで、法と経済という二つの分野を深く理解し、地域規模で活動・活躍する、国際社会に認められるリーダーの養成をめざします。国際的な企業活動によって生じるさまざまな法律問題を中心に、多彩な専門教育科目を通じて、法律や経済の知識を修得します。同時に現代の国内・国際社会における企業の役割もしっかりと学ぶことができます。



政治学科

- 公共政策コース
- 地域創造コース
- 国際政治コース
- メディア政治コース

定員389名

詳細はP.16へ

政治とは社会の多様な利害や価値を調整・統合することです。身近なところに政治があり、そこに公共空間が生まれます。歴史や思想に学びながら、市民社会、ガバナンス、グローバリゼーション、ジェンダーなどの現代的課題に応えることが政治学の目的です。このような新しい潮流に即し、新しい視点から政治社会のあり方を考えいくためのカリキュラムを特徴とします。

問題発見・解決力を培うゼミナールを1年次から実施

専門的な知識はもちろん、社会課題の多様化が進む現代では、自ら課題を発見し、多くの人と協調しながら、問題解決策を導き出す能力が求められています。法学部では少人数・双方向型で行うゼミナールを1年次から展開しているため、問題発見・解決能力をいち早く伸ばすことができます。

1年次

大学での学び方を修得

「導入演習」「法学基礎演習A」「政治学基礎演習」「法基礎演習B」で専門の基礎を固めていきます。また「基礎演習」ではより深い教養を身につけます。



2年次

専門分野への入口

2年次では、「実定法基礎演習」「政治学基礎演習」「法基礎演習B」で専門の基礎を固めていきます。また「基礎演習」ではより深い教養を身につけます。



3~4年次

より高度な専門学修へ

多くのゼミは学科を問わず応募できます。幅広いテーマで100講座以上を開講しており、1学年15名程度の仲間と、自分の興味のあるテーマを探求し、徹底的に専門性を養います。



実務家による実践的な授業



法曹・企業・公務で実際に活躍する実務家による授業を豊富に用意し、実務で求められる知識やスキルを理解しながら、卒業後に求められる能力を培うことができます。実際に実務経験を行うインターンシップ授業(法曹、行政)も、キャリア形成に役立ちます。

法律学科	裁判官・検察官・弁護士から学ぶ	P. 08へ
国際企業関係法学科	企業家からビジネスを学ぶ	P. 12へ
政治学科	地域の在り方を公務員から学ぶ	P. 16へ

グローバル化に対応できるカリキュラム



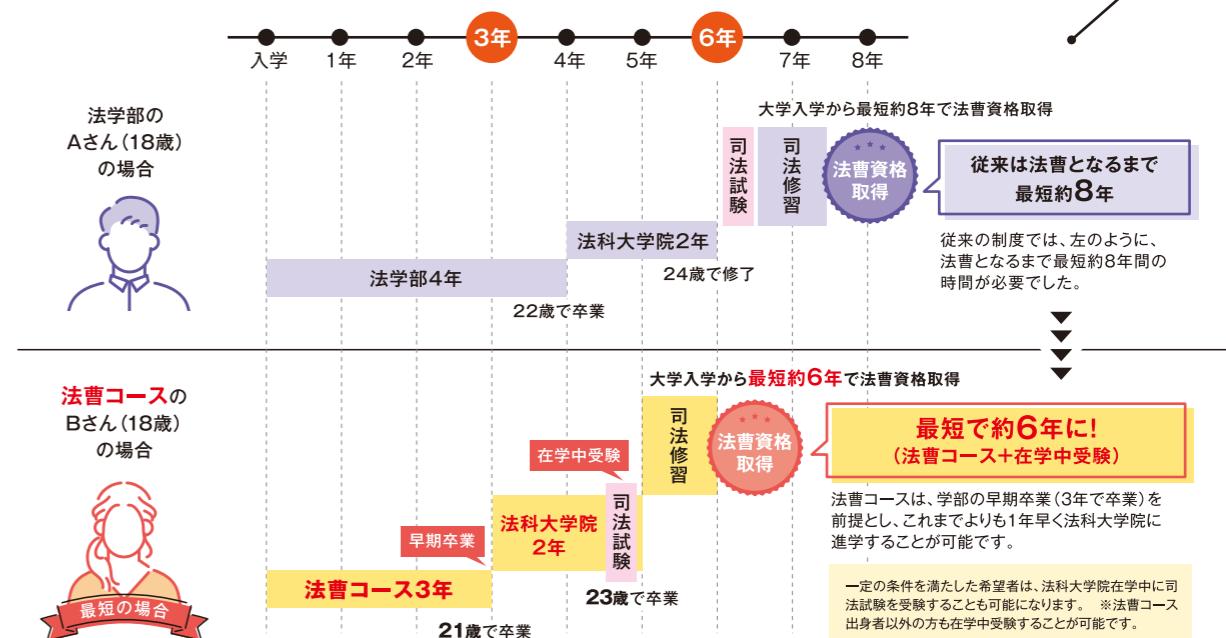
海外留学はもちろんのこと、カリキュラムのなかでも語学力や国際感覚を磨くための授業を豊富に用意しています。英語で行う専門科目の授業も数多く展開。留学生と机を並べて、国際比較の視点から専門的な知識を身につけることができます。

留学生とともに学び国際比較の視野を修得	P. 12へ
充実したグローバル教育を展開	P. 22へ
多様な海外留学プログラムを用意	P. 22へ

Topic

法曹コース3+2の制度が選択できます!

中央大学法科大学院との連携から、法学部を3年で早期卒業することをめざす「法曹コース」を選択することで、約2年早く最短約6年で法曹資格を取得できます。



法律学科

Department of Law

法律を土台として、自分で考える力を獲得するために
幅広い教養やコミュニケーション力を合わせて修得する。

人権感覚や国際的素養を基礎に、社会問題を「自分の頭で」考える力こそ法律家に求められる重要な要素です。

法律科目に加えて、歴史や哲学などの幅広い教養やコミュニケーション能力、語学力などを修得し、

人と社会への理解を深めています。

問題が発生した理由と

その妥当性を検討する視点は

法学部の学びで身についたもの

学びの特色

法律科目だけでなく歴史や哲学など 幅広い教養を修得

憲法・民法・刑法などの法律科目に加えて、一般教養や語学力の修得、ディスカッションやプレゼンテーションで培われるコミュニケーション能力の向上などを重視。人と社会を理解し、紛争の解決だけでなく、ビジネスや公務など、幅広いフィールドで活ける力を身につけます。

「LAW & LAW」の教育 学部を3年で修了し法科大学院をめざす

学部を4年で修了し、その後法科大学院へと進学するのが一般的な法曹への道となります。2019年度より期間を短縮し、最短約6年間での法曹資格取得をめざす制度を開始しました。いち早く法曹の道へ進み、社会で経験を積み重ねることが可能となります。

コース紹介

法曹コース

裁判官・検察官・弁護士などの法曹をめざす学生を主な対象としたコースです。憲法、民法、刑法など、「七法」と呼ばれる基本法律科目について深く学ぶことができます。

公共法務コース

公務員や各種機関の職員として公共政策に関わるための知識を中心に学びます。法律科目のほかに経済分野や政治分野の科目を通して、幅広い知識を培います。

企業コース

知的財産法や環境法などを含む先端法律科目や外国法など、ビジネスの世界で活用できる知識を中心として学びます。一般企業など幅広い分野で活躍できる人材をめざします。

活躍をめざすフィールド

- 金融／メーカー／マスコミ等の幅広い一般企業
- 企業の法務部門
- ロースクールを経て法曹へ(弁護士・検事など)
- 公務員

PICK UP

法律実務家の体験を交えた講義や模擬裁判など、実践的な授業を展開

「法曹論」では、法律実務家の体験談を通じて、法律家の仕事の具体的イメージを高め、法律家が社会で果たす役割について理解を深めます。授業では、キャンパス内に模擬法廷を構築し、現職の法曹による模擬裁判を実施しています。



STUDENT'S VOICE

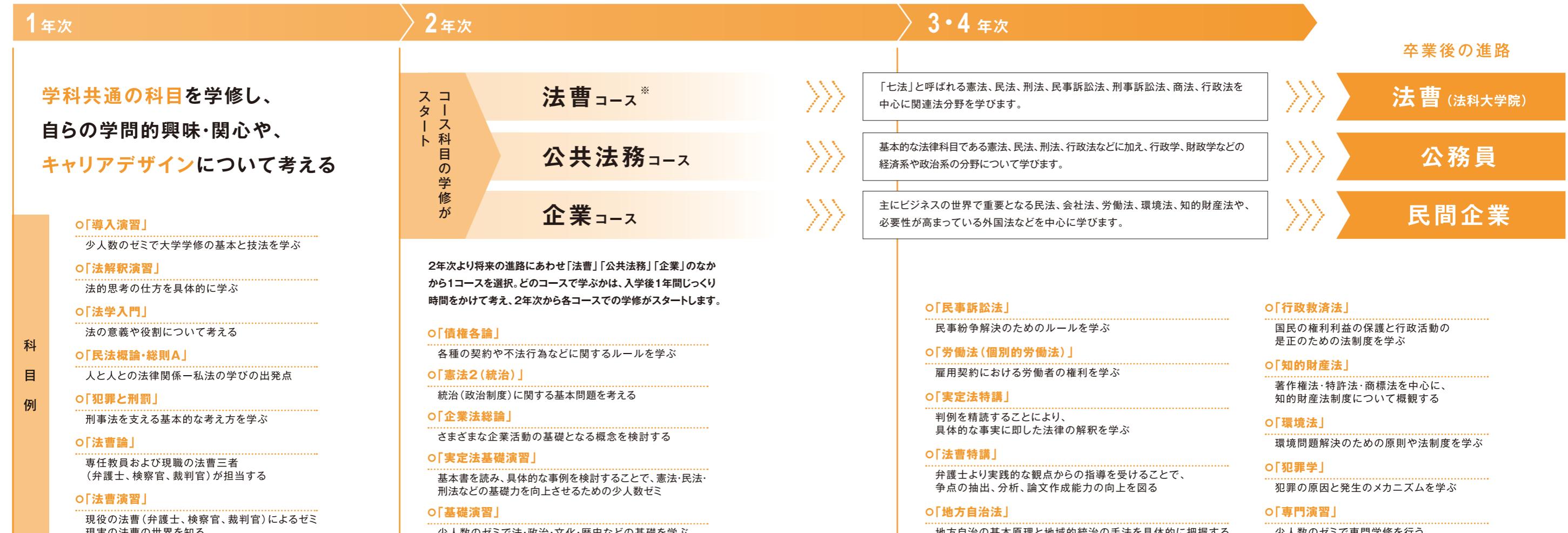
中央大学を選んだのは、浪人中に通っていた予備校に大学の職員の方が訪れ、伝統ある法学部の強みを説明してくださったのがきっかけです。その際、炎の塔の存在を知り、法曹への道筋が見えた気がしたので、司法試験にチャレンジしてみたいと思うようになりました。実際に合格を果たすことができたので、中大法学部の強みは本当だったと実感しています。今後は、司法修習を経て、法律実務家としての一歩を踏み出します。外国语を駆使してより多くの問題を解決できる実務家になるのが目標なので、留学も視野に入れつつ、研鑽に努めてまいります。

4年 市野 陽己 | 県立加治木高等学校(鹿児島県)出身

2022年司法試験合格

曲田 統
Magata Osamu
教授
刑法学





社会の根底を成す法律や政治について 良い環境で学びたいと思い中央大学へ

法学部の学びを通して身についたのは、まず論理的な思考力、次に多角的な視点から物事を分析する力、そして柔軟な感性とコミュニケーション能力です。元来、私は物事の筋道を絶対視しがちでした。しかし、複雑に絡み合った利益や事情、歴史の上に微妙なバランスを取りながら展開される法制度や政策、統治システムについて学ぶにつれ、社会は決して理屈だけでなく人々の感情や関係者間の妥協、流行そして時には運などの要素にも支えられていることを知りました。この気づきは、これから社会に出て行く私自身にとって大きな発見だと感じています。

4年 重田 李玖 | 市立基町高等学校出身（広島県）出身

内定先 日本アイ・ビー・エム株式会社



一つずつ考え方言葉に落とし込むことが できるようになったと実感しています

会社法ゼミでは各回の担当者が判例研究を行い、ゼミ生全員で議論を交わします。会社法は時代のニーズに合わせて動向がある分野でもあり、それぞれの判例を自分の立場に置いて多方面から考察することで法的感性が養われます。また、自分と異なる考え方を知ることも大変有意義でした。就職活動は「人々の生活の根底を支えられること」「公的な仕事」の二つを軸に進め、希望を叶えることができました。本学科で培った論理的思考力や議論を咀嚼する力は、人と対話し、仕事をする上でも必要なもの。その力を大切に社会や人々の経済・生活基盤を支えていきたいです。

4年 馬場 菜々子 | 私立中央大学附属横浜高等学校（神奈川県）出身

内定先 日本銀行



国際企業関係法学科

Department of International
Law and Business

グローバルな視点を通して法と経済を学び
地球規模での課題解決能力を身につける。

法と経済の知識を併せ持ち、地球規模で活躍できる、国際社会のリーダーを育成。

グローバル社会における企業活動で生じる法律問題を軸として

法律と経済の両面から、企業が果たす役割と価値について理解を深めています。

学びの特色

少人数教育で丁寧な学びを実現

一人ひとりの個性を将来につなげる

法律と経済という二つの領域の専門的かつ実践的な知識を培うため、学科では1年次からはじまるゼミナール形式の「法学基礎演習」をはじめとして、少人数体制による丁寧な教育を実現。幅広いキャリアの可能性の中から、一人ひとりの関心に合った進路を描くことができます。

法と経済に加え、外国語の修得にも注力

世界を見据えた未来の人材へ

グローバル化の進む社会で活躍するには、専門知識はもちろん、異文化への理解や語学力も欠かせないスキルとなります。1年次から充実した外国語教育を展開し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を中心として、世界で活動するための必須技能を身につけます。

活躍をめざすフィールド

- 金融／メーカー／マスコミ等の幅広い一般企業
- 外資系企業やグローバルに事業を手掛ける国際企業
- 企業の法務部門
- 公務員
- ロースクールを経て法曹へ(弁護士・検事など)
- NPO／NGOをはじめとする各種国際機関など

PICK UP

英語で専門分野を学ぶ授業を展開
留学生との交流を通して視野を広げる

語学力だけでなく、国際感覚や異文化理解を磨くために、法学院では国際企業関係法学科を中心として、法と社会の関係について、国際比較の視野で学ぶ専門総合講座「日本法入門／比較憲法」など、留学生とともに学ぶ機会や英語で専門科目を学ぶ機会を豊富に用意しています。



4年間の学びと留学経験をもとに

卒業後は大学院へ進みます



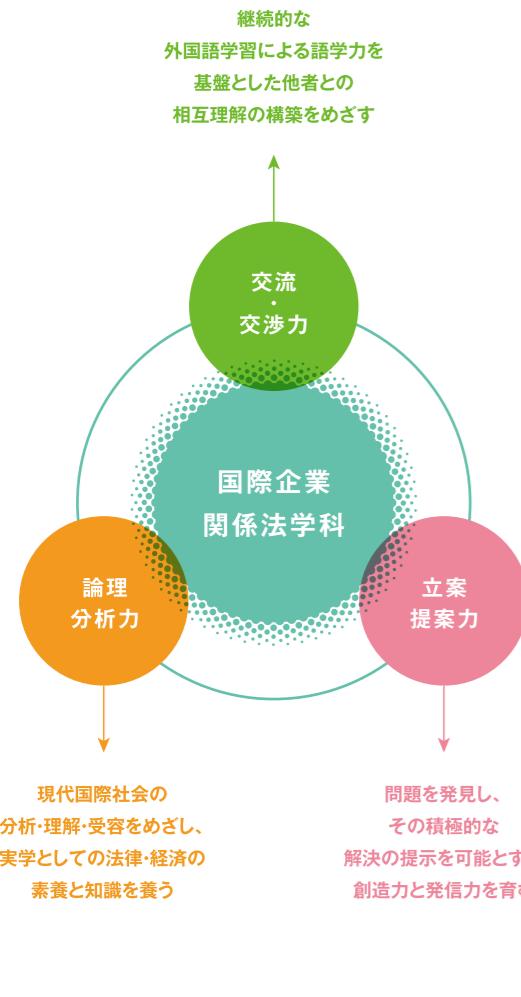
STUDENT'S VOICE

国際法や国際政治を学びたいと思い、語学の修得にも力を入れている本学科へ進学しました。入学後は国際紛争解決法や国際人権法など、より専門的な科目を履修したので、当初は漠然としていた目標が徐々に明確になっていきました。また、3年次にはフランスへ留学しました。選択外国語で履修していたフランス語を集中的に学び、留学先では上記の専門科目に加え、地政学や政治哲学など幅広い科目を学べました。入学当初は将来の目標がはっきりしていませんでしたが、本学科の授業と留学の経験からより深く国際法と国際政治を学びたいと考えたので卒業後は大学院に進学する予定です。

4年 キャパー マイケル | ツイード・リバー高校(オーストラリア) 出身

進学先 京都大学大学院

[修得できる3つの力]



1年次	2年次	3・4年次
<p>科目例</p> <p>現代社会と法学・社会科学の接点に触れる科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「民法総則・物権総論」 具体的な事案により民法総則と物権総論を修得する ○「ミクロ経済学」 ミクロ経済学の体系的な知識を修得する ○「比較法文化論」 異文化間コミュニケーション能力を法律学の視点から体得する ○「外交と国際法」 外交と国際法の相互作用や事例を理解する 	<p>進路別に体系化された科目群</p> <p>法學・社会科学の専門性を深める科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「企業法総論」「企業取引法」 商法・会社法など企業に関する法を学修する上での基礎的理解と知識を獲得する ○「マクロ経済学」 マクロ経済学の体系的な知識を修得する ○「国際法総論1・2」 国際法の歴史および現代国際法の主体や、その形成と適用について学ぶ ○「平和論」 秩序と正義の関係や国際事象を身近な問題として捉え、問題の原因と解決策を考察する 	<p>法學・社会科学の応用展開を図る科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「経済法(独占禁止法)」「経済法(経済規制法)」 公正かつ自由な競争のための法的規制として、独占禁止法や規制改革について学ぶ ○「開発の国際法」 国際社会の開発問題への取り組みの歴史や南北問題への国際法のアプローチを学ぶ ○「企業財務論」 リスクを考慮した判断・意思決定・評価について基礎と実践の面から学ぶ ○「財政学」 財政分析の一般的枠組みや租税政策、公共支出、社会保障および財政政策・財政再建について学ぶ ○「国際人権法」 国際的な視点から、人権問題を学ぶ

卒業後の進路

民間企業
外資系企業公務員
国際公務員法曹
(法科大学院)

自肃期間中の強みは「時間」と気づき
「やってみよう!」精神が芽生えました

高校時代から関心があった難民問題について学ぶため、2年次にアクティブ・ラーニング海外プログラムに参加しました。オーストラリアの難民政策を調べ、実際に避難した難民の方から生の声を聞きました。一方でメディアへの関心も強く、3年次には学科の垣根を越えて政治学科のゼミに入り、「海外と日本メディアの報道の違い」について学びました。卒業後は報道機関に就職します。大学時代に培った「やってみよう・経験してみよう」の精神で、目まぐるしく変化する世界の動きを取材し、皆さんが目にニュース番組の制作に携わりたいと考えています。

4年 天目石 史織 | 私立日本女子大学附属高等学校(神奈川県)出身

内定先 日本テレビ放送網株式会社



課題意識の追究にともなう志向の変化
そこに対応する柔軟さも本学科の利点です

3年次以降の科目選択の幅が広いので、その時点の自分に合った講義を受けつつ、将来を方向づけていくのも本学科の利点です。私は元々、外交官を志望していました。しかし、1年次に参加した外務省主催のプレゼンコンテストを契機に課題意識が高まり、後のFLPや専門演習を通して関心が移行、民間ビジネスの最前線で活躍したいという思いが強くなりました。卒業後は自動車メーカーへ就職します。大学4年間で身につけた論理的かつ批判的思考と実践的なコミュニケーション能力を活かし、世界の人々の支えになれるよう力を發揮していきます。

4年 前中 翔太 | 国立大阪教育大学附属高等学校池田校舎(大阪府)出身

内定先 トヨタ自動車株式会社



政治学科 Department of Political Science

誰もが幸せに暮らすことのできる社会をめざして歴史や思想のなかから現代社会の課題を紐解く。

多様な価値観を調整・統合し、より良い社会をつくることが政治の目的です。市民社会、ガバナンス、グローバリゼーションといった現代的課題と向き合い新しい視点から政治社会のあり方を考える知識と素養を身につけます。

学びの特色

現代社会のさまざまな社会課題を学びのテーマとして追究する

変化する時代のなかで政治を学ぶには、新しい潮流や社会課題に対して感度を高め、知識をアップデートすることが重要です。政治学科では「NPO・NGO論」「平和学」「環境政治論」「ダイバーシティと社会」など、時代にふさわしい知識と考え方を学ぶ科目を多数設置しています。

地域と連携して動ける人材に求められる実践力とコミュニケーションを培う

政治（ガバナンス）を学ぶうえで、地域社会やそこで暮らす人々への理解と協調は欠かせません。実際の地域を対象とした社会調査や地域と連携したプロジェクトなどに加え、実務家から学ぶインターンシップを通して、卒業後に役立つ実践力を培うことができます。

コース紹介

公共政策コース

主に公務員をめざす学生を対象としたコースです。公共政策に関わる科目と、関連法規を中心に学んでいきます。

地域創造コース

地域政治や都市政策を中心に、地域創生に関わるために知識を修得し、地方公務員やコミュニティビジネスといった舞台をめざします。

国際政治コース

国際公務員やグローバルビジネスでの活躍をめざすコースです。国際政治や国際法を中心に、世界に通じる知識を修得します。

メディア政治コース

主にジャーナリストや情報産業をめざす学生を対象としたコースで、政治や社会とコミュニケーションの関係性を学びます。

活躍をめざすフィールド

- 金融／メーカー／マスコミ／IT企業等の幅広い一般企業
- 公務員（国家公務員・地方公務員・国際公務員含む）
- ジャーナリスト・メディア産業

PICK UP

自治体を支える制度や仕組みを実務経験者のリアルな声から学ぶ

専門総合講座「自治型社会の課題」では、実務経験をもつ講師による授業で、制度・政策の基本的な内容や、実際に自治体が抱える課題とその対策を学びます。このような実践的な授業を通して、法学・政治学の理論を社会に適用し、自ら解決策を考える力の獲得をめざします。



入国審査官として強い使命感を胸に

人々の安心安全な生活を
支えていきます



STUDENT'S VOICE

中央大学法学部へ進んだのは、政治学科で法律と政治を同時に学べること、また公務員試験合格への支援が充実している点に魅力を感じたからです。特に印象的な授業は行政インターンシップゼミです。進路を選択する上で、学生のうちから行政実務を経験して見聞を広げたいという思いで参加しましたが、実務家のご指導や実習後のフォローアップなど想像以上に有意義でした。卒業後は入国審査官として働く予定です。多くの人々が世界の国々を行き交う現代、国民の皆さん、外国の方々が安心安全な社会生活を送ることができるよう支えてまいります。

4年 長崎 ひより | 函館中部高等学校(北海道)出身

内定先 入国審査官(出入国在留管理庁)



優秀な友人たちと対話を重ねるうちに 自分の考え方方が洗練されていきました

卒業後は新聞社に就職するので、現在、新聞が現代社会においてどのような影響を与えていたのか、新聞の役割や存在意義について学んでいます。授業の魅力は現場の声が聞けることです。現役の記者から実体験を聞くことができるので、常に世界の動向を知ることができます。中でもウクライナ取材をした記者の話は印象的でした。講義やゼミを通してメディアとしての新聞の情報の正確さ、そして信頼性をあらためて認識しました。自ら情報を得て、考え、解決する—。法学部で得たその力を活かし、人々の重要な情報源である新聞を支える柱となりたいです。

4年 太田 洗介 | 県立小倉高等学校(福岡県)出身

内定先 株式会社読売新聞社



ゼミではジャーナリズム論やメディア政策論を学び、 卒業後は法科大学院へ

法学部での学びを通して、普段から物事を考える際の平衡感覚が養われたと感じています。情報の中から事実と意見を区別して捉え、また事実の裏付けをしっかりと確かめ、論点をはっきりさせて決断する、という方法論が身につき始めました。これは政治学の学びからくるジャーナリズムの精神であり、また法律学の学びからくるリーガルマインドでもあると思います。絶余曲折の果てに、卒業後は法科大学院へ進学することになりました。直近の目標は司法試験に合格すること、将来は弁護士として企業法務の最前線で働きたいと考えています。

4年 富樫 怜大 | 都立八王子桑志高等学校(東京都)出身

進学先 中央大学法科大学院



Faculty 教員紹介

法の学びは、人間と社会を学ぶこと。決して堅苦しい話だけではありません。
教員も懐深い方々ばかりです。ここでは、そんな法学部の奥深い教員と授業の一部をご紹介します。



» 中央大学法学部教員紹介Webサイト

<https://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/law/teacher/>



■ 短期海外プログラム (ILOリサーチプログラム)
文献調査や講義を通してILOの理念や活動、国際労働基準について学び、ILOの専門家に直接アドバイスを頂きながら、自らの設定した途上国の労働問題に関するテーマについて研究・分析します。

国際的、国内的平面で考える視座が涵養されます
国際機関の専門家などにインタビューし、各自一つの国際労働問題について1年間研究する授業です。

遠藤 瑞季 国際企業関係法学科3年／暁中学高等学校(三重県)出身



富田 真紀
Tomita Maki
教授
国際教育開発



小室 夕里
Komuro Yuri
教授
英語学・辞書学

■ 外書講読
法学に関する英語の文献を読み解くための基礎力を養う授業です。それぞれの解釈を持ち寄って議論します。

英語で専門科目を学ぶ基礎を築く
各自の探求心が重視されるこの科目では英語力はもちろん、法律に関する発見や社会問題について考えるきっかけを得られました。

近藤 勇 法律学科2年／県立千葉高等学校(千葉県)出身



森 光
Mori Hikaru
教授
ローマ法

■ ローマ法
法学は古代ローマに発祥しました。この講義では、原点に立ち返り、法学とは何かを考えていきます。

ローマ法の昔から人間の本質は同じ
既製品を食べなれた私が日本法と遠い時空の法を比較して出会ったのは社会を法に昇華する現象でした。

井上 茜琳 法律学科4年／私立関東学院高校(神奈川県)出身



高橋 徹
Takahashi Toru
教授
メディアコミュニケーション論



ニックス
マイケル
Nix Michael
教授
カルチャラルスタディーズ、
アカデミック・リテラー

■ 短期海外プログラム (シドニー・アクティブ・ラーニング・プログラム)
さまざまな現場にいる多様な人々の声を聴き、多文化社会を作り上げていくために自分はどこに立ちどのような役割を担えるのか、ともに考えていきましょう。



■ メディアコミュニケーション論
現代の政治や世論形成を、メディア報道やネット上のコミュニケーションの動きに着目して理解するための授業です。

身近な問題を改めて考えられる良い機会でした
マスメディア、インターネットを用いた政治問題など、自分の身にある問題に改めて向き合って広い視点から物事を見られるようになりました。

栗飯原 未知 政治学科3年／私立江戸川女子高等学校(東京都)出身



谷 みゆき
Tani Miyuki
准教授
言語学・英語学

■ 英語1・5 Reading

言語にまつわる諸問題について専門家が書いた文章を使用し、英語の読解力と効果的な発信力を養うことを目的とした授業です。

英語を読む力を鍛えるだけではありません
文献を批判的に考察する力、考察の内容を発信する力がつきました。

石川 順大 法律学科2年／横浜市立南高等学校(神奈川県)出身



浦谷 郁子
Uratani Ikuo
助教
スポーツ哲学・倫理学

■ 基礎演習

スポーツと法の関わりはどこに潜んでいるのか。疑問を持ち、読解、まとめる力を根気強く、丁寧に自ら学ぶクラスです。

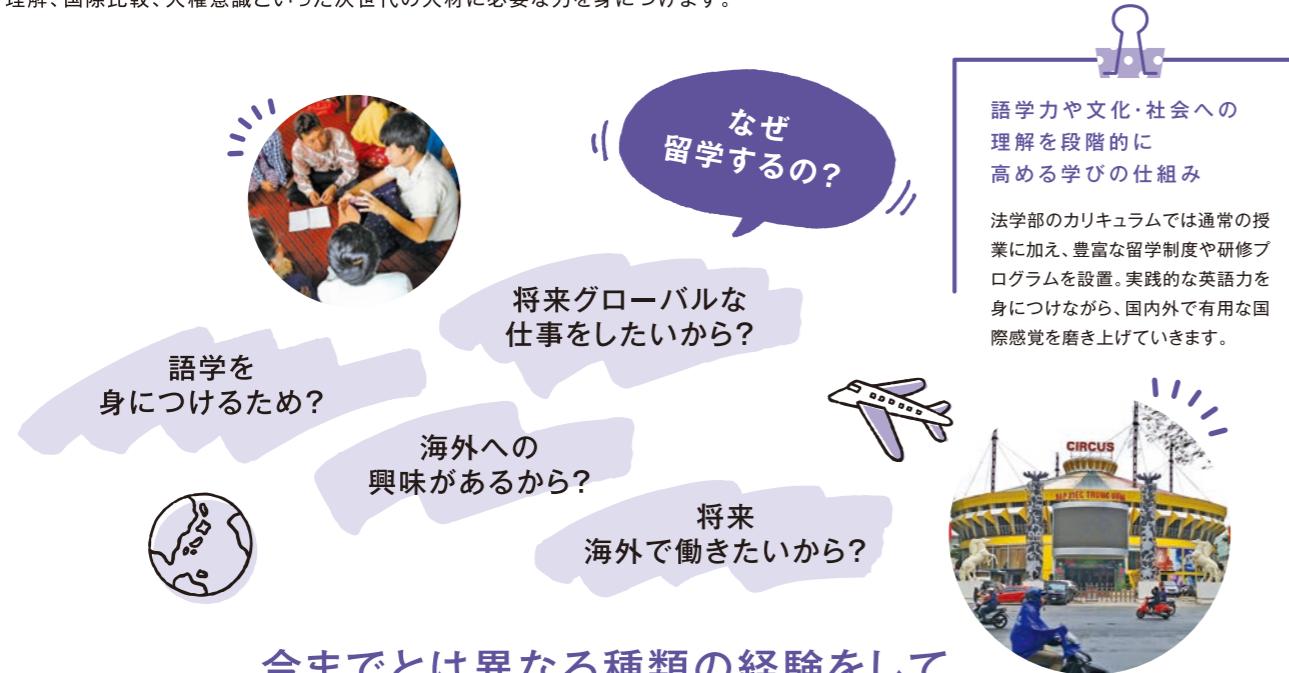
自ら知識を深めることができました
スポーツと栄養に関する知識を競技生活に応用できるようになりました。

藤原 寛人 法律学科2年／東海大学附属浦安高等学校(千葉県)出身



グローバル化が進む世界を見据えて

世界を舞台に活躍したいという人はもちろん、近年では日本国内のグローバル化も大きく進んでおり、国内企業や法曹、公務員として働くうえでも国際感覚の修得は欠かせないものになっています。法学部では多様な留学制度をはじめとしたグローバル教育で語学力、多文化理解、国際比較、人権意識といった次世代の人材に必要な力を身につけます。



今までとは異なる種類の経験をして、
答えは… 視野を広げて、人生の選択肢を増やすため

グローバルなことへの関心が目的ではありません。国内で働くと思っている人にも、役立つ経験ができます!

海外スタディツアー

- ・ベトナムの法と社会
- ・カンボジア法整備支援と社会開発

法は、社会の反映であるとともに、社会を変える力を持っています。各々の社会は、政治、経済、歴史、文化などが異なり、多様性がありますが、相互に影響しあい、共通の課題を見いだすことができます。大学で学んだ知見が現実の社会でどのように生かされているのか、見聞した課題が、大学での学びにどのように結びついていくのか、双方向の問題意識を比較の視点を持ちながら発展させ、日本の法と社会を相対的に観察し、主体的、批判的に事象を理解することを目指します。

短期海外プログラム

- ・ILOリサーチプログラム(スイス)
- ・シドニー・アクティブ・ラーニング・プログラム(オーストラリア)

フィールドワーク・リサーチと体験学習を組み合わせたスタイルをとり、将来グローバルなキャリアをめざす学生に対して、理論と実践の両面における経験と学びの機会を提供するプログラムです。また重要な資質としてのプロアクティブな姿勢、批判的思考、アカデミック・リサーチ・スキルおよび実践的な語学力の修得を目指します。



グローバル・プログラム奨学金

グローバル・プログラム科目(海外スタディツアー、短期海外プログラム)を履修している法学部生を支援する全額給付型奨学金です。初めての留学でも安心して挑戦することができます。

LL.M.*でのハイレベルな学びと多くの出会い
将来像を具体化するきっかけになりました

イギリスに住んでいたことからBrexitが与える影響に関心があったこと、また国際法やビジネス法を学修する中で国際取引やEU法をより深く探究したいという思いが芽生え、EU圏の国への留学を決めました。留学先の大学院では、EU国際私法を用いながら国際取引契約や海上輸送を中心とした運送契約などについて学びました。また、修士論文の作成に向けた準備のような授業ではEU法や比較法の基本となる法知識、法律書類の書き方、法廷弁論の方法など幅広く教わりました。留学中にいろいろな人に出会ったことが自分の将来のキャリアについても見つめ直すきっかけになり、帰国後の進路選択にも大きく影響したと思います。法学部には交換留学や短期留学のほか学部内のプログラムもあり、奨学金制度も整っています。海外に 관심がある人、挑戦してみたい人は、ぜひ学生生活の中で留学という選択肢を視野に入れてみてほしいです。

*LL.M. (Master of Laws): 約1年間のロースクールのコース。

日本人の場合は、大学の法學研究者、裁判官や大手涉外法律事務所の弁護士など、実務経験者がさらなる専門的な法學教育を受けるために進学するケースが多い。



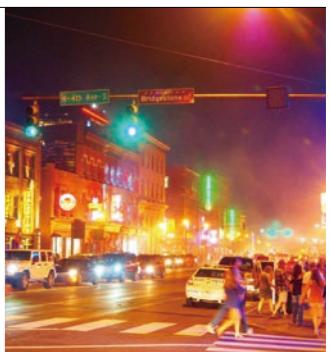
4年 楠 みなみ | 私立国際基督教大学高等学校(東京都)出身
国際企業関係法学科

半年間～1年間の海外体験でグローバルな視野を培う



交換留学・認定留学

長期の留学でじっくりと国際感覚を養い、世界で活躍するための力を身につけます。中央大学全体で展開する制度で、一部を除き留学先での取得単位が卒業単位に認定されるので長期留学を実施しても、4年間で大学を卒業することが可能な制度となっています。なお、中央大学では41の国と地域の211校(2023年2月現在)と学生交換協定を締結し、お互いの交流を深めています。



Scholarship

法学部独自の全額給付型奨学金

成長意欲に応える「やる気応援奨学金」

「お金を給付する」にとどまらない、あなたの夢を叶える総合的な教育プログラム

法学部生が国内外で行うさまざまな活動を支援する、法学部独自の全額給付型奨学金です。応募の際に求められるのは、自分の将来を真剣に考え、夢を実現するために能力と自信をつけるための「やる気」と、それに基づいて作り上げる自分だけの活動計画。準備段階から直接審査、そして合格後の活動を通じてプロジェクトの計画立案能力や受給者同士のネットワークも広がります。



給付金額

名 称	給付金額	募集人員	対 象
一般部門	最高 100万円	若干名	学内外における諸活動(研究活動、社会奉仕活動、海外留学など)により、本奨学金の目的にふさわしい実績を上げることが期待される学生
海外語学研修部門	最高 30万円	60名程度	夏季休業中、春季休業中に英語圏、独語圏、仏語圏、中国語圏において、該当の言語を使用した、語学留学、インターンシップ、NGOなどの諸活動を行おうとする学生
長期海外研修部門	最高 100万円	若干名	海外の大学や研究機関などに長期間在籍して、法律学・政治学および関連學問領域の勉学に従事し、本奨学金の目的にふさわしい実績を上げることが期待される学生
法曹・公務員・研究者部門	30万円	法曹 約40名 公務員 約15名 研究者 若干名	法曹・法律関連職、公務員、研究者をめざし、目標を達成することが見込まれる3・4年次の学生。GPA条件あり
オンライン語学研修特別部門*	最高 10万円	10名程度	海外の大学等の教育機関や語学学校が提供するオンライン講座を受講する学生

*オンライン語学研修特別部門は、新型コロナウイルス感染症の影響により2021年度以降、特別に設置した部門です。



「やる気応援奨学金Library」で先輩達の活動実績をチェックしよう!

中央大学法学部のWebサイトでは、「やる気応援奨学金」を活用して海外で貴重な体験を積んだ先輩達の体験談を豊富に掲載しています。世界各国における先輩達の体験談のなかに、きっとあなたも共感し、憧れるエピソードが見つかるはずです。気軽にチェックして、あなたが理想とする海外での学びをイメージしてみましょう。



法曹・
公務員・
研究者部門

奨学金のおかげで受験した
試験種全てに合格できました

1年次に体験した静岡県掛川市のフィールドワークをきっかけに、公務員への関心が高まりました。資格試験へ向けた勉強を始めたのは3年次に上がる頃です。その際、予備校代やテキスト代を補うために奨学金を活用しました。公務員を志す上でもそれなりのお金が必要です。学費を稼ぐためにアルバイトをしないと、と考えていましたが、その時間を勉強に充てることができたので大変有難かったです。そのおかげで受験した試験種の全てに合格することができました。卒業後は都府の職員になるので、配属される局が決まるまでは地域課題について幅広く学び、決まってからはその局について深く学び、より良い地域づくりに貢献していきたいと考えています。

4年 佐宗 玲音 | 都立国立高等学校(東京都)出身

政治学科 内定先 東京都庁



海外語学
研修部門

温かい環境のなかで楽しみながら
フランス語力を向上



海外語学
研修部門

私は「やる気応援奨学金」の海外語学研修部門を受給しました。フランスのアルプス麓の町・アヌシーに留学し、IFALPES語学学校でフランス語の修得に励みました。IFALPESには、さまざまな国からの生徒が集まっていて、授業は少人数形態で進められました。先生も、クラスメイトも非常に心温かく、滞在中は楽しく、にぎやかにフランス語が勉強できました。授業後は、ホストファミリーと一緒に食事したり、友達と一緒に歩いたり、授業で学んだ日常会話を発揮することもできました。いまでも、フランスで出会った友達と連絡を取り合っています。今後も、フランス語のさらなる修得に向けて勉強していきたいです。

4年 金子 瑞実 | 国立東京芸術大学附属
国際中等教育学校(東京都)出身

法律学科 内定先 株式会社三菱UFJ銀行



留学先の友人と一緒にアヌシー湖を一周

やる気応援
奨学金
一般部門

Face to Faceなふれあいの大切さを
あらためて実感することができました

急激な経済成長による先進的な面と発展途上の影の面——このような二面性を持つインドはグローバル世界の縮図とも考えられます。将来、世界を跨いで活躍したい私にとって、実際に見て、体験して学ぶべき価値がある国と強く確信したため、やる気応援奨学金制度を利用してインドへ渡りました。現地ではHirameki Solutions Indiaでのインターンに加え、5回にわたり日本文化のワークショップを開催するなど、大変充実した1ヵ月間を過ごしました。来年はオランダの大学へ留学を予定しています。高校時代から興味があった国際協力、国際関係論を、政治や法律的な考察にとどまらず、文化人類学や社会学の観点からも学んでいきたいと考えています。

3年 宇藤 梨乃 | 私立明治学院高等学校(東京都)出身

国際企業関係法学科



1年次からスタートするキャリアサポート



仲間と試験合格をめざす

難関の国家試験合格に向け、勉学に励めるよう法職茗荷谷研究室、公務員茗荷谷研究室などを設置しています。学生たちが共通の目標に向かって切磋琢磨し合い、また人間性を高める場ともなっています。

少人数で展開される司法試験対策

課外講座として「法職講座」を実施しています。弁護士や司法試験合格者、法科大学院生等が講師となり、効率的に学べる工夫されたカリキュラムを展開。学外の予備校などに通う必要なく、きめ細やかな指導と手厚いサポートを受けることができます。



PICK UP 細やかな指導で 司法試験合格を支える 課外講座「法職講座」

資格試験へ向けた対策はもちろんのこと 法曹界の方による講義も大変有意義です

基本七法に加えて、司法試験に合格後、実社会で活躍するのに役立つ幅広い素養を身につけることができるため、法科大学院へ進む道を選択しました。炎の塔では司法試験受験団体の一つである秀朋会に所属し、法職講座は1年次の夏頃から受講しています。同じ志を持つ仲間と勉強できること、ほかの予備校に比べ学費が安いことなど利点は多々ありますが、司法試験合格直後の先輩から直接指導を受けられることも、受験を控えた学生にとって非常に大きいです。さらに法曹界の方から直接ご指導いただけるので、学問のみならず実務の面も知ることができ、とても参考になります。今後の目標は予備試験合格、そして法科大学院試験の合格をめざします。



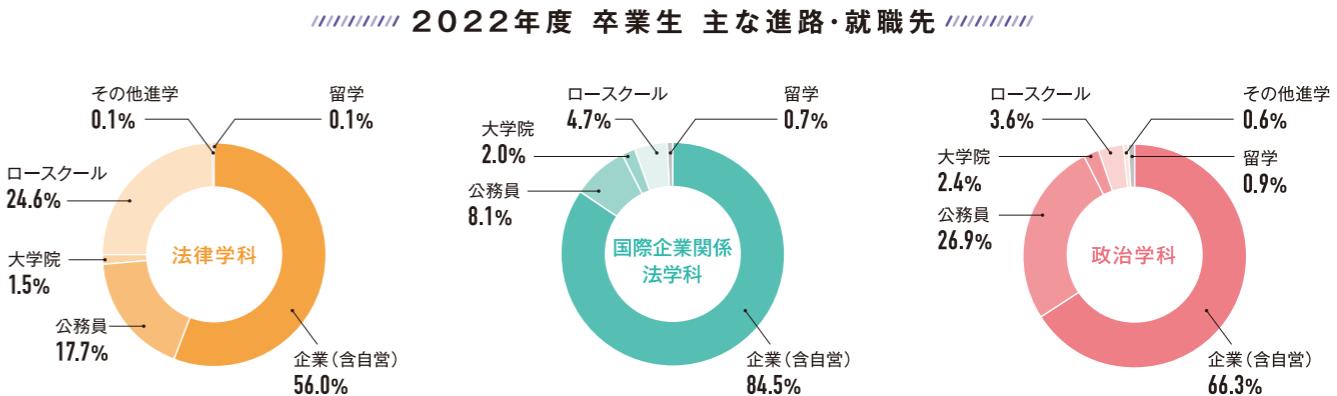
3年 登坂 玲央 | 私立茗荷谷高等学校(茨城県)出身

法律学科

法曹・公務員から一般企業、マスコミと幅広く活躍

3~4年次の就職活動に関するサポートだけでなく、法学部では1年次から学生一人ひとりが自分らしいキャリアを見つけるためのキャリア教育を継続的に行います。多様な可能性のなかから満足できる将来を描くことができるでしょう。

中央大学法学部は、法科大学院への進学、公務員試験、企業への就職において、他大学と比べて優位にある進学・就職実績を誇っています。その理由は「キャリアセンター」による全学的なキャリア支援に加え、法学部内で1年次から継続して行われるキャリア教育にあります。



東京都庁／国税庁／高等裁判所／法務省／埼玉県庁／国土交通省／法務省 検察庁／東京都 港区役所／東京都 新宿区役所／神奈川県 横浜市役所／ソフトバンク(株)／東京電力ホールディングス(株)／(株)キーエンス／(株)サイバーエージェント／(株)村田製作所／東日本旅客鉄道(株)／本田技研工業(株)／住友重機械工業(株)／(株)リクルート／日本生命保険(相)

アピームコンサルティング(株)／地方裁判所／会計検査院／公正取引委員会／東京都庁／国税庁／埼玉県 坂戸市役所／(株)サイバーエージェント／野村證券(株)／楽天グループ(株)／(株)三井住友銀行／あいおいニッセイ同和損害保険(株)／(株)エヌ・ティ・ティ・データ／トヨタ自動車(株)／日本中央競馬会／(株)JALグランドサービス／YKK AP(株)／日本テレビ放送網(株)／司法書士法人洲謙合同事務所／弁護士法人才一センター総合法律事務所

東京都庁／国税庁／高等裁判所／法務省／埼玉県庁／国土交通省／神奈川県庁／東京都 中野区役所／東京都 杉並区役所／埼玉県 越谷市役所／愛知県 名古屋市役所／(株)読売新聞東京本社／(株)北海道新聞社／中部日本放送(株)／(株)フジテレビジョン(株)／エヌ・ティ・ティ・データ／日本生命保険(相)／京セラ(株)／(株)大塚商会／東京海上日動火災保険(株)

注:主な就職先は順不同です。

司法試験・法科大学院進学・公務員試験実績

●中央大学法学科在籍時合格者数(2022年度司法試験)

司法試験合格 4名

●学部在籍時 司法試験予備試験合格者(2022年度)

1 東京大学	50
2 慶應義塾大学	30
3 早稲田大学	15
4 中央大学	11
5 京都大学	10 (人)

●国家公務員総合職合格者(2022年度) 注:私大のみ掲載

1 早稲田大学	118
2 慶應義塾大学	89
3 立命館大学	63
4 中央大学	54
5 明治大学	34 (人)

●法科大学院別進学者(2022年度) 注:3人以上進学実績のみ掲載

中央大学法科大学院	48	東北大学法科大学院	6
東京大学法科大学院	15	一橋大学法科大学院	3
早稲田大学法科大学院	12	神戸大学法科大学院	3
慶應義塾大学法科大学院	12	東京都立大学法科大学院	3 (人)

●地方公務員就職者(2022年度) 注:2人以上の就職者自治体のみ掲載

東京都庁	17	神奈川県 藤沢市役所	2
国税庁	8	東京都 世田谷区役所	2
高等裁判所	8	総務省	2
警視庁	7	東京都 中野区役所	2
法務省	5	東京都 杉並区役所	2
自衛隊	5	東京都 板橋区役所	2
国土交通省	5	神奈川県 川崎市役所	2
埼玉県庁	4	秋田県 秋田市役所	2
神奈川県庁	4	千葉県 八千代市役所	2
法務省 検察庁	4	東京都 荒川区役所	2
神奈川県 横浜市役所	4	東京都 足立区役所	2
地方裁判所	3	神奈川県 大和市役所	2
家庭裁判所	3	(人)	

GRADUATE'S VOICE

法学部へ進学した理由は振り返れば

「正義感」という言葉に突き当たります

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.在学中のインターンシップの一環で、スイスの国連欧洲本部に通いました。世界平和の最前線と思っていた現場で感じたのは、一人一人の意識が変わらなければ世界は変わらない、という諦観に似た思いでした。帰国後、世論や価値観を動かすメディアの力を信じてみようと考え、新聞社での仕事を選択しました。国内外でIT企業や金融機関、官庁を取材し、デジタル化による世の中の変化を記事にする機会に恵まれました。



日本経済新聞社 勤務 平本 信敬 | 2008年 卒業 県立高志高等学校(福井県)出身

Q.法学部での学びは活かされていますか

A.「国際関係は人間関係だ」。ゼミの教授が教えてくれたこの言葉が常に心にあります。どんなに大きな物事も、一つ一つ解きほぐしていくと最後は人と人の関係に行き当たると。国際関係に限りません。ビジネスも、家族も同じです。取材するときもビジネスを考える時も、人と人がどう関わっているか、そしてどう関わっていくかを意識することで手掛けりが見えています。

社会の重要な側面を学んだことは法曹としてバランス感覚の支えになっています

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.法曹三者にはそれぞれに魅力を感じましたが、ビジネスの現場や困っている人に最も近い存在として直接貢献できること、また自分自身で人生を自由にデザインしやすいことから弁護士を志望しました。法学部での学びは、現職に大変役立っていますが、犯罪学の授業では実際に刑務所を見学するなど、社会の重要な一面についても学ぶことができました。このことは法曹としてのバランス感覚の支えになっています。



TMI総合法律事務所 勤務 平 龍大 | 2013年 卒業 道立北海道岩見沢東高等学校(北海道)出身

法解釈や法令用語は特殊な世界。法学部で得た知識は日々の支えになっています

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.内閣府の防災担当で、所管法律である灾害対策基本法の解釈や防災担当が立案する法令等の審査といった、法令関係業務を行っています。私が現職を志望した理由は、社会に大きなインパクトを与えるところにシンプルな魅力を感じたからです。在学中に受けている法律・行政系の講義を通じて、日本が直面している課題が多様かつ困難に満ちたものであることを知り、その解決に携わりたいと考えていた自分にとってはベストな選択だつたと思います。



内閣府 勤務 小林 鉄 | 2018年 卒業 都立井草高等学校(東京都)出身

Q.大学時代の印象的な思い出は何ですか

A.ゼミです。普段の活動はもちろん大切ですが、教授やメンバーと他愛のない話をしたりお酒を飲み交わしたり、そういった何気ないひとときも良い思い出になっています。授業やアルバイト、部活、サークル等で忙しくなると思いますが、ゼミは大学時代にしか経験できない貴重な機会ですので、積極的に参加することをおすすめします。

現役の法曹から話を伺うことができる授業を通して将来像をイメージしました

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.テレビのニュースで見たある殺人事件の裁判結果に関心を抱いたことがきっかけで、中学校3年生の頃から刑事事件に法曹として携わりたいと思いはじめ、中央大学の法学部へ進学しました。その後、検事と話をする機会があり、その時に仕事に対するやりがいや熱意を聞き、検事という職業に興味を持つようになりました。法学部で学んだことは、実際に検察官となった現在もそのまま活かされています。



検察庁 勤務 本郷 優理 | 2017年 卒業 私立浦和明の星女子高等学校(埼玉県)出身

答えは現場にある——何気ない会話の中から課題解決のヒントを探ります

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.大学進学を機に地元を離れ、外から岩手県を見たことで地域資源の豊富さや魅力を再認識し、それらを後世や国内外に伝えていくとともに、地域振興に携わっていきたいという思いが強くなりました。また、在学中にさまざまな地域課題・社会問題に触れ、実際に取り組んでみたい分野が多くあったため、部局を越えて幅広い業務に携わることができる県職員を志望しました。



岩手県 勤務 吉田 沙織 | 2018年 卒業 県立盛岡第一高等学校(岩手県)出身

Q.仕事をするうえで心がけていることは

A.東日本大震災から11年、復興に向けた道のりはまだ半ばですが、自分が携わった事業により事業者が目標に向かって一歩前へ踏み出しができたり、経営力の向上に取り組んだりしている様子を見聞きすると大きなやりがいを感じます。何気ない話の中に課題解決のヒントが隠れていることから、「答えは現場にある」という意識を常に持ち、地域の人々と積極的にコミュニケーションを図るよう心がけています。

多くの時間を過ごした炎の塔の研究室。大学時代の出会いは私の一生の財産です

Q.現在の仕事を志望した理由は何ですか

A.卒業後は社会貢献できる仕事に就きたいと考えた中で、民間企業では必ずしも実施されていない業務を使命とする独立行政法人の取り組みに魅力を感じました。また、実家が薬屋を営んでいたことから、労災病院を運営している当機構であれば、幼い頃から馴染みのある医療にも携われると思い、入構を希望しました。現在は本部において、アスペスト疾患の診断方法に関する研修の運営事務を担当しています。



独立行政法人 労働者健康安全機構 勤務 河村 圭子 | 2012年 卒業 私立遺愛女子高等学校(北海道)出身

Q.受験生へメッセージをお願いします。

A.大学時代は自由を謳歌できる貴重な時期、私は多くの時間を炎の塔の研究室で過ごしました。中央大学にはやる気を後押ししてくれる環境が整っているので、そのサポートを充分に活用して充実した学生生活を送ってください。受験生活で先が見えずに暗闇を感じる時にも、自分の足元を確かめ、着実に一歩ずつ進んでいけば、きっと進むべき道に辿り着けるはず。応援しています!

※2023年3月時点の内容です。

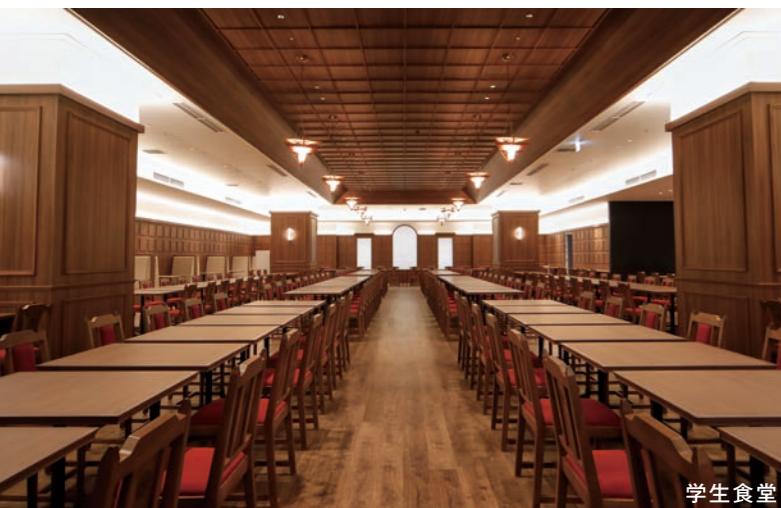
Introduction of Myogadani Campus

2023年春、東京都文京区に誕生、中央大学法学部の新キャンパス。

ひろがる、つながる、ふかまる

茗荷谷キャンパスへ ようこそ。

135年以上の伝統と実績を受け継ぎ、
「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもと、
引き続き、新たなキャンパスで
地球的な視野に立った法的問題意識と
法的問題解決能力を備えた人材を養成します。



新時代を切り拓く—— さらに発展・充実した法学教育を展開

茗荷谷キャンパスへの移転に伴い、法学部と法科大学院がより密接に連携した教育体制になりました。さらに、法学部・国際情報学部・理工学部の3学部が共同で文理融合型の思考力を育成する科目も設け、社会的な問題を解決するための知識を実践的に学ぶことができます。

3学部共同

法学部、国際情報学部、理工学部。連携法曹基礎課程3年間+3学部が共同で文理融合教育を実践。

3+2制度(法曹養成)

法科大学院2年間の制度が選択可能。

実務家教育

実務家教員による授業の充実と公務員試験への実績。

ゼミ活動

問題発見・解決力を培うゼミナールを1年次から実施。

日本と世界の未来を創るために必要な
「リーガルマインド」を身につけることができます。

1 法学部と法科大学院(ロースクール)の連携強化

法学部の茗荷谷キャンパスへの移転とともに、
法科大学院(ロースクール)は駿河台キャンパスに移転。
両キャンパスは地下鉄で3駅という近接した位置関係となり、
これまで以上に法曹一貫教育を強化していきます。

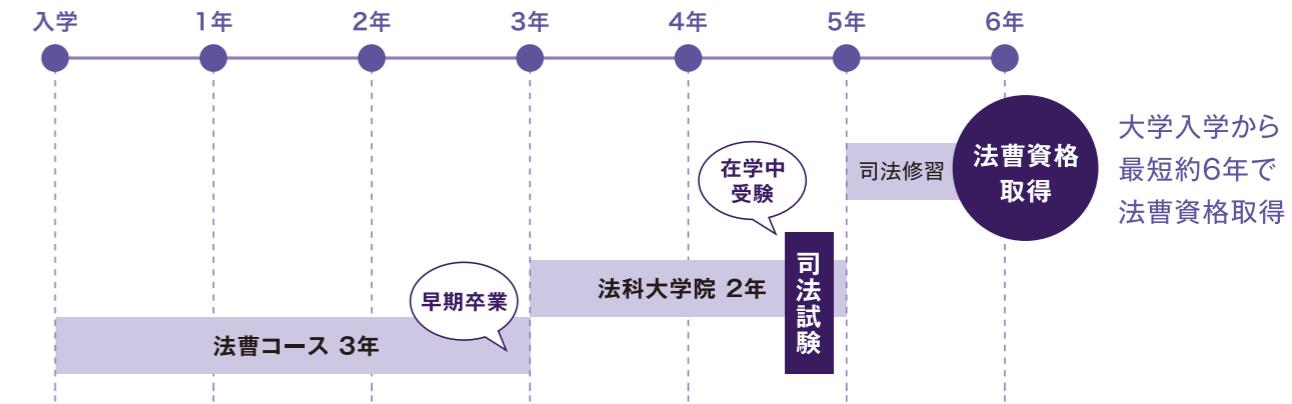


2 学びのフィールドはさらに拡大、学びのかたちもより充実

法学部が都心に移転することにより、後楽園キャンパスの理工学部、
市ヶ谷田町キャンパスの国際情報学部の3学部が、共同で文理融合教育を実践。
3学部共同開講科目で、社会科学系と理工学系の多方面から分析できる視点を養います。
さらに、卒業生のネットワークを活かし、
社会の第一線で活躍する実務家を招いた講義を、積極的に展開していきます。

法曹コース3年間+法科大学院2年間の制度も!
より柔軟な教育プログラムで、志高く学ぶことができます。

“3プラス2”と呼ばれる一貫教育プログラム。法学部を3年で早期卒業することをめざす「法曹コース」を選択することで、従来よりも2年ほど早い最短約6年で法曹資格を取得できます。



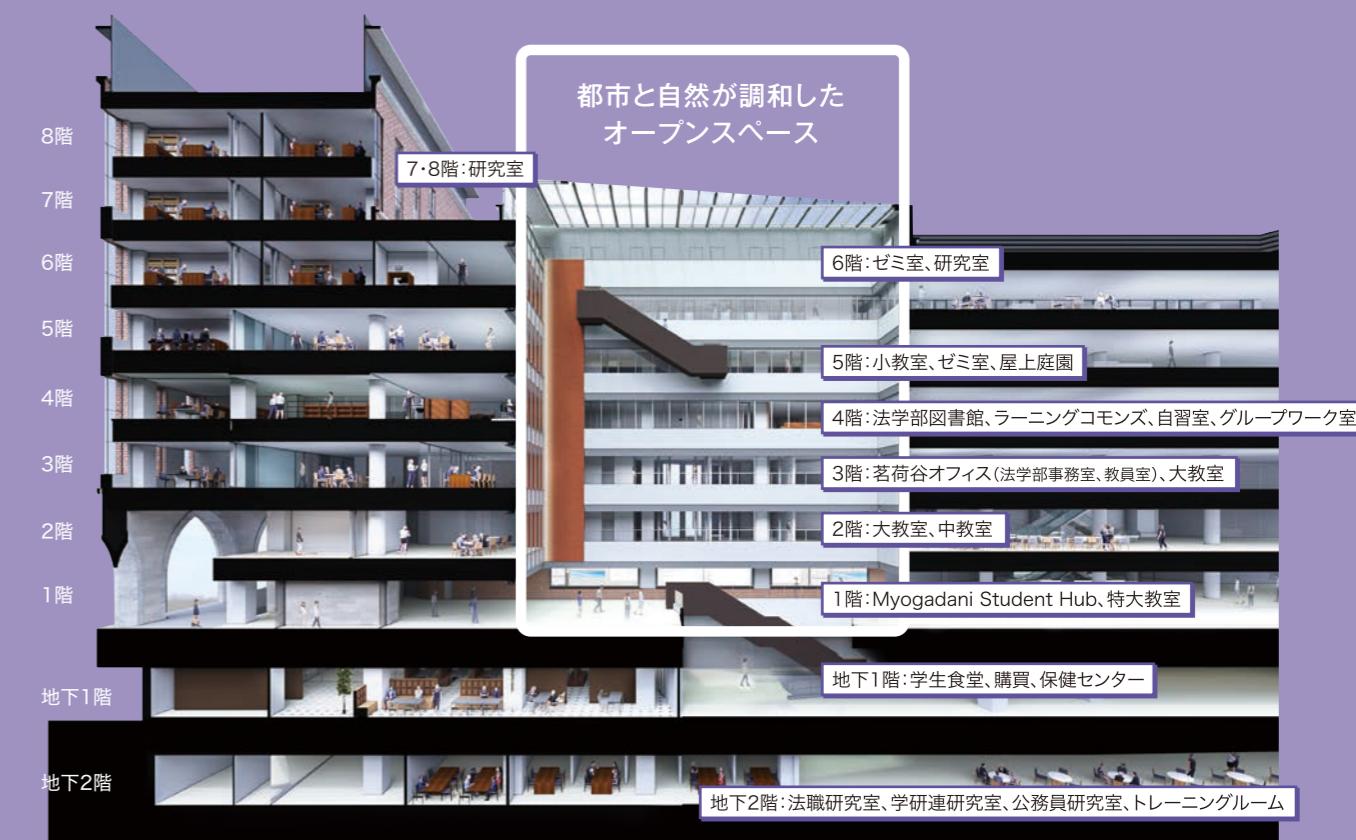
Introduction of Myogadani Campus

駅ちか・都心・新キャンパスで新しい時代が動きだす。

茗荷谷キャンパスは東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩1分。池袋駅まで2駅、その他主要駅にも30分以内というアクセスの良さ。都心ならではの利便性抜群の立地です。

茗荷谷 キャンパス 大解剖

茗荷谷キャンパスの外観は、中央大学の前身である英吉利法律学校の赤レンガ造り校舎をモチーフとしつつ、低階層には、旧駿河台校舎と同じ尖頭型アーチを取り入れ、伝統的かつ端正な様相のなかにも、開放感のある空間です。
教室は遠隔授業やハイブリッド型授業に対応。図書館や食堂は、創立者が学んだイギリスのミドル・テンブルをモチーフとしたインテリアで統一されています。
大学施設のほか、文京区の地域活動センターや保育所なども併設され、地域との共生、地域への貢献を目指します。





法学部長からのメッセージ Message

中央大学 法学部へようこそ

—「行動する知性。」—

法学部長
猪股 孝史 教授
Inomata Takashi
専門分野：民事法学
研究テーマ：仲裁法、民事手続法

中央大学は、1885年、18人の若き法律家たちによって「英吉利法律学校」として創設されました。明治の日本を近代的な法治国家にするために、経験を重んじ、自由を尊ぶイギリス法の教育を通して、実社会が求める人材を養成しようとしたのでした。

中央大学の建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」は、ここに源があります。「行動する知性。」たるべく、法学部では、法律学や政治学に関する専門的知識を基礎に、豊かな感性をもち、異文化を理解し、自分の考えを表明できる能力を備えた人材の育成に取り組んでいます。それゆえに、法学部の卒業生は、裁判官や検察官、弁護士だけでなく、公務員や政治家、研究者、教員、さらにはジャーナリズム、民間企業、スポーツの世界など、実に多彩な分野で活躍しているのでしょう。

2023年4月、法学部は、緑豊かな多摩キャンパスから、文京区・茗荷谷キャンパスに移転しました。学び舎は変わっても、学問に真摯に向かい、課外活動に打ち込む学生たちの姿が変わることはないはずです。新しいキャンパスで、法学部の伝統と実績を受け継ぎながら、未来に開かれた無限の可能性を追求し、「行動する知性。」を体現して実社会に寄与していくという熱い想いに溢れたみなさんを、法学部は心より歓迎します。

2023年、法学部は
茗荷谷キャンパス(文京区)に移転しました。

交通アクセス

